

## スペイン. 文学の旅

### 訳例と解答例

#### 19. 海の叫び(1), p.45

朝と午後、ずっと雨が降り続いていた。抑えつけられた胸からあふれ出る大粒の涙のような大きな雨のしずくが落ち、それははがねの反射のように宙に輝き、水たまりの水をはねとばしていた。日が傾いてきた。空をおおっていた雲はとても低く立ちこめて、もやも薄くかかっていた。

カンタブリアの海は戯(たわむ)れていた。しかし土手の上から視線を落とすと気持ちまで一緒に落ちていくようだった。はじめは恐怖から、そして後にそれが驚異となって心が動かされるのだ。城壁の下の岩が大波の動きをうかがい、海原がこれに力いっぱい襲いかかっていると、この敵どうしの衝突で泡の煙が飛び散っていた。

\* L1. Grito en el mar という題なので、「海で」に訳してよいですか？

→grito などの動作を示す名詞なので、en を伴った形容詞を「…の」という意味で使ってもおかしくありません。

\* L3. como reflejos の句はどこまでですか。

→de acero までです。

\* L4. 作者はけっこう punto y coma (;)を使いますが、なぜですか？

→う punto y coma (;)は、長い意味的なまとまりを区切るために用います。とくにコマで区切られた単位をまとめる働きがあります。

\* L7. al dejar caer の主語は？

→主文の主語と一致しますから、el espíritu になります。ここでは作者の気持ちを指すので、作者自身ととりましょう。

\* L8. con ella の ella は mirada (視線)を指す。

\* L8. 「ようだった」という部分がスペイン語に見つかりません。

→「気持ちまで一緒に落ちていった」ことが比喩的な表現なので、「ようだった」を加えました。

\*L9. *pie* は人間の「足」を指しますが、ここでは「下の部分」という意味。「麓(ふもと)」という意味でも使われる。

\*L9. *por* は理由, 手段を指す。

\*L11. 「敵どおし」は「敵どうし」に訂正します。

### ●EJERCICIO, p.46

(1) カルロスが病気になって来ることができなかった。

(2) もうすぐで私たちは試験から解放される。

(3) 私はそれをする義務があるように思う。

\* (1) の *por* は「理由」ですか？ 解答例だとはっきりと理由として示していませんが？

→「理由」の *por* です。正確には「病気だったので」という意味になります。

\* (3) の「…であるように思う」とあるが、この「思う」は文中のどの部分に対応しますか？

→*Me veo* に対応します。これは再帰動詞で「…の状態にある」の意味になりますが、単に、他人事のように、「…の状態だ」というよりも、ここではもう少し積極的に「自分が義務があると見る」、つまり「自分に義務があると思う」という意味にとりましょう。